



# 伊豆沼・内沼 サンクチュアリセンター ニュース Vol. 45

2014年3月

(公財) 宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団  
栗原市若柳字上畑岡敷味17-2  
Tel:0228-33-2216 Fax:0228-33-2217  
ホームページ: <http://izunuma.org/>  
E-mail : [izunuma@circus.ocn.ne.jp](mailto:izunuma@circus.ocn.ne.jp)

## 第8回 伊豆沼・内沼研究集会

### 伊豆沼・内沼の研究を通じて広がった保全の環



ジュンサイの復元活動を報告する  
宮城県加美農業高校の皆さん



クロモの移植実験結果を報告する  
宮城県本吉響高校科学部の皆さん

2014年2月8日(土)に、「第8回伊豆沼・内沼研究集会」が開催されました。宮城県内外から50名の方々が参加しました。今回は、植物に関する発表が多く、特に高校生による発表が目を見ました。伊豆沼・内沼では多くの方が研究に取り組んでおり、これらの成果が保全活動につながっています。



## プログラム



- 1.伊豆沼におけるハスの残存量および栄養塩の貯蔵  
仲田信也(東北大院・工学研究科)
- 2.伊豆沼におけるハス群落内外のメタン酸化細菌群集解析  
迫 裕樹(東北大・理)
- 3.底生動物群集から見た伊豆沼の湖底環境  
安野 翔(仙台市)
- 4.2013年に伊豆沼で見られたイヌタヌキモの急激な増加  
横山 潤(山形大学)
- 5.蘇れ！ジュンサイ～伝統農業と豊かな自然環境を継承するものとして～  
佐々木光・尾形清太・鎌田勇太(宮城県加美農業高校)
- 6.「クロモ群落復元に向けた移植実験～2013年の結果～」  
鎌田大輝・鎌田翔稀・畠山信斗・小松知里・村上ひより  
(本吉響高等学校・科学部)
- 7.圃場整備後の水田水域におけるナマズの生活史の解明  
森 晃(東京農工大)
- 8.日本におけるコクガンの個体数と分布  
嶋田哲郎(伊豆沼財団)
- 9.伊豆沼・内沼におけるオオハンゴンソウの駆除  
星 雅俊(伊豆沼財団)
- 10.伊豆沼・内沼における植生復元の取り組みと現状  
犬飼博信(東北緑化環境保全株式会社)



## 第54回 伊豆沼・内沼クリーンキャンペーン

春の「伊豆沼・内沼クリーンキャンペーン」を下記により開催します。このクリーンキャンペーンは、美しい水辺の景観を守るために開催される、一斉ゴミ拾いのイベントです。伊豆沼・内沼周辺に設置されている3ヶ所のサンクチュアリセンターを拠点に、沼の景色を楽しみながらゴミを拾います。伊豆沼・内沼の美しい景観は、学校や、企業、地域の方々などの協力により保たれています。



前回のようす



集合場所

**と き：**平成26年3月21日（金） 春分の日

※当日雨天の際は、3月23日（日）に順延します。

**開 会：** 8：30（受付 8：00～）

**閉 会：** 10：30終了後センター見学

**ところ：**伊豆沼・内沼周辺

※汚れてもよい服装でご参加ください。軍手・火ばさみ・長靴等をご持参下さい。

**多くの方々のご参加お待ちしております！**

## 渡り鳥生息調査

伊豆沼・内沼の自然情報を  
ホームページで発信してい  
ます。

最新情報は

 <http://izunuma.org/>

宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター

施設紹介 イベント 伊豆沼・内沼の自然 保全活動 調査研究・資料 財団の沿革・概要

最新情報

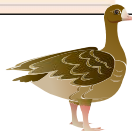
「天然記念物コケガンの衛星追跡調査 最新情報公開 2/18」**News!!**  
衛星送信機を装着したコケガンの追跡調査の最新情報を掲載しました。  
最新情報(4/6/2/18現在) (PDF: 219KB)  
調査の概要はこちら

ライブカメラ  
(カメラ番号: 03080950)

PR25-PCR  
サンクチュアリセンターニュース

環境省東北地方環境事務所  
宮城県自然保護課  
宮城県栗原市  
宮城県登米市  
宮城県大崎市

「第39回 伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト」表彰式の日程変更について  
大雪のため延期となりました「表彰式」については、以下のとおり日程を変更し開催することになりましたので、お知らせします。  
日 時:平成26年3月2日(日) 午後1時30分～



伊豆沼・内沼（2月21日調べ）

総	数	50,379羽
ガ	ン 類	46,489羽
ハ	クチョウ類	1,666羽
カ	モ 類	2,224羽

マガンの北帰行が始まりました（2/25）

伊豆沼・内沼、蕪栗沼など宮城県北部で越冬するマガンは、春になると秋田県八郎潟、小友沼、北海道宮島沼などを經由して繁殖地である極東ロシアへ向かいます。

2014年のマガンの春の渡りが始まりました。2月25日に8,800羽のマガンが八郎潟で観察されました。

これから気温の上昇とともに渡りが本格化します。ハクチョウ、カモはマガンより遅れて渡りが始まりますので、ハクチョウは3月中旬くらい、カモは4月まで楽しむことができます。